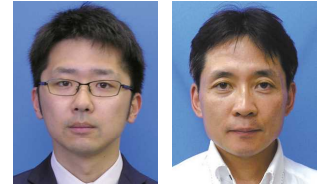


外来生物等による健康・生活被害の防止・軽減

(研究期間：平成28～29年度)



社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室
 研究官 池田 敬 室長 舟久保 敏
(博士(農学))

(キーワード) 外来生物、外来生物法、外来種被害防止行動計画、都市公園

2.

インフラの維持管理

1. はじめに

日本は、外来生物による生態系への影響に対して、外来生物法や外来種被害防止行動計画に基づく対策の実施などにより一定の成果を出し始めている。その一方で、外来生物、時には在来生物による人間への健康・生活被害は、それらの分布地域で絶えず報告されている。公園・道路・河川等の管理者は外来生物の防除に加え、これらの施設における安全性・快適性の向上を目指し、利用の支障となる生物被害の防止・軽減を図る必要がある。

以上の背景のもと、本研究は都市における公園管理者等が外来生物等による被害に適切に対応し、被害発生を防止・抑制することを目的に実施するものである。

2. 調査の概要

本研究は、全国各地に生息している外来生物・在来生物のうち、都市環境で健康・生活被害を与えている、もしくは与える可能性のある種に焦点を当て、調査を行った(表)。調査項目として、対象種ごとに①生態学的情報、②健康・生活被害に関する情報と対策、③健康・生活被害の軽減・防止に関する情報を整理した(図)。これらの情報は、国内外の既存文献や官公庁のホームページ・刊行物等、有識者へのヒアリングから収集した。また、全国的な状況を把握するため、北海道から沖縄まで全国17箇所にある全ての国営公園を対象としたアンケート調査

を実施した。

表 調査対象とした種と代表的な被害事例

調査対象種	代表的な被害例
カワウ	糞害
ムクドリ・インドハッカ	糞害、騒音
アフリカマイマイ	感染症
キョクトウサソリ科全種	毒(刺傷)
セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモ	毒(刺傷)
フタゲチマダニ・キチマダニ等	感染症
ヤマビル	吸血
ヒアリ・アカカミアリ	毒(咬傷、刺傷)
クロジャコウカミキリ	倒木、落枝
ツマアカスズメバチ・オオスズメバチ等	毒(刺傷)
ヒトスジシマカ・ネッタインシマカ	感染症
タイワンハブ・サキシマハブ	毒(咬傷)
ワニガメ・カミツキガメ	咬傷
ヒョウモンダロ	毒(咬傷)
ピラニア	咬傷
アライグマ	感染症、建築物の破壊
イノシシ	咬傷、感染症
ヒグマ・ツキノワグマ	咬傷、裂傷
ハクビシン	人家への侵入
クマネズミ・ドブネズミ	感染症、咬傷、火災
アムールハリネズミ・ヨーロッパハリネズミ	感染症の可能性
メリケントキンソウ	刺傷(無毒)
アジサイ	毒
スイセン	毒
ホテイアオイ	悪臭、水質汚染

3. 今後の展開

平成29年度は、今年度実施した国営公園を対象としたアンケート結果を踏まえ、本研究の対象から漏れていた種の補足調査を実施する。そして、その成果を現場で活用可能な公園管理者等への外来生物等の対策マニュアルとしてとりまとめ、周知を図ることにより、被害の軽減・防止に役立てることを計画している。

<p>① 対象種の生態学的情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外での生息分布 身体的特徴(体長・体重・外観等) 生息環境 主な餌 行動が活発な季節・時間帯 移入した時期・場所、原産地 競合関係にある在来種 	<p>② 健康・生活被害に関する情報と対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内での被害状況 主な被害症状 発生時の公園等の利用形態 感染経路、媒介者 被害症状に対する対応 発生後の管理者の対応、措置、課題 	<p>③ 健康・生活被害の軽減・防止に関する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 分布や侵入状況、情報照会先のリスト 識別方法 留意すべき環境の抽出と監視方法 被害者・診療機関・管理者の対処法や対応 被害発生後の局所的環境措置 再発防止・抑制のための活動 被害発生時の被害者や管理者の対策フロー
---	--	---

図 具体的な調査項目